

活動レポート

エゾシカ研究委員会

文責：エゾシカ研究委員会幹事 江頭 優

知床エゾシカファーム視察と囲いワナ調整

1. 概要

日時：平成27年11月13日(金)9時～17時

参加者：2名(エゾシカ研究委員)

概要：知床エゾシカファーム(斜里郡斜里町字真鯉)の視察と、北海道職業能力開発大学校との共同研究により開発した「ホイッスル型ワナ」の設置調整作業を実施した。

2. 内容

(1) 知床エゾシカファーム視察

知床エゾシカファーム・富田社長からの説明。事業開始時は、全く見通しが立たない状況から生体捕獲、一時養鹿、処理、出荷、販売、マーケティングなど事業の様々な課題に苦勞をされてきています。

最近は、食用肉を出荷する以外にも、ペットフードの原料としての鹿肉出荷もし、総合的に採算をとるように工夫をされています。家畜の肉は抗生剤等を使うため、ペットがアレルギーになる可能性があり、鹿は薬を使っていない点で好まれているようです。有効な活用方法の1つと思われました。

鹿は広いファームでのどかな環境で健康的に養鹿されていました(図1)。



図1 広々として健康的な生育環境

(2) 囲いワナ調整

①ホイッスル型囲いワナの概要

当委員会、北海道職業能力開発大学校(安井技術士・当委員会委員)との共同研究によるホイッスル型囲いワナ(図2)の調整を行いました。



図2 ホイッスル型囲いワナのご概念図

既存のワナの課題

- 扉を作動させ捕獲すると、ワナ外の鹿の警戒心が強くなる。
- 既存ワナは大規模なため移設費用が高い
- 山間地に設置するため電源はない
- ワナ捕獲後にワナから追い込んでトラックに積み込む作業に複数名の人数が必要

ホイッスル型囲いワナの特長

- 3G回線インターネット経由でセンサーとライブカメラで監視、扉の遠隔閉鎖、群れをまとめて捕獲
- ユニット方式で、移設を容易化
- ソーラー発電利用
- ホイッスル型の中心から円周まで伸ばした防風ネットを使って、鹿を1人で追込回収

②設置状況



図3 設置状況

インターネット経由の遠隔操作で落とし扉を閉じる機能に不具合があったため、我々が現地(図3)でハードウェアを調整し、同時に、北海道職業能力開発大学校(小樽市銭函)でソフトウェアを修理しました。夕暮れも迫り修理をあきらめかけましたが、ぎりぎりの時間で修理でき、インターネット経由での扉の落下テストに成功しました(図4)。



図4 扉の落下テスト

③実際の捕獲(初捕獲成功！)

平成27年12月7日22:50に、エゾシカの一団がワナにはいったところで、インターネット遠隔操作で落とし扉を落下させ、5頭(オス1頭 メス3頭 仔1頭)の生け捕りに成功しました。図5は、インターネット経由の捕獲後カメラ画像をキャプチャーしたものです。翌日、1人で鹿を追込回収されました。今シーズンは、その後複数回捕獲に成功しました。

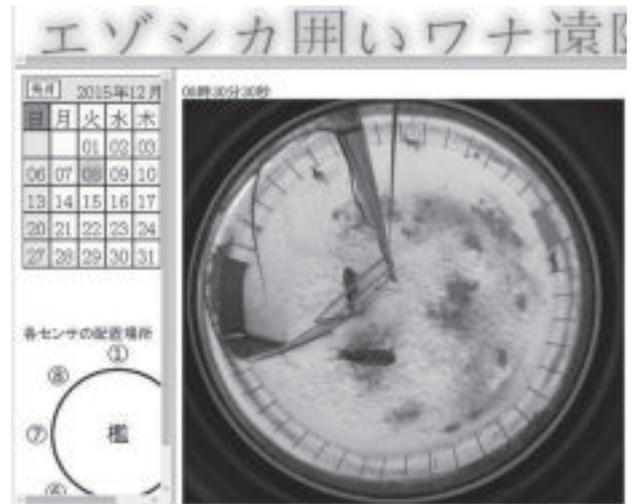


図5 遠隔捕獲(ワナ中央上部からワナ内を撮影)

④新聞での紹介

ホイッスル型囲いワナについては、以下の新聞記事でも取り上げられました。

12/17付 読売新聞朝刊(北海道版)32面

12/19付 北海道建設新聞3面

『北海道職業能力開発大学校は、シカ肉を取り扱う知床エゾシカファーム、日本技術士会北海道支部のエゾシカ研究委員会との共同研究で開発した新型のエゾシカ囲いわなを11月から設置し、このほど斜里町内で5頭の捕獲に成功した。従来型の問題点を改善した囲いわなが、エゾシカ肉の安定供給と各業界への被害防止に貢献しそうだ。(以下省略)』

3. おわりに

ワナ周辺には鹿をおびき寄せるためのまき餌があるので、ハンターがワナ周辺に近づいた鹿を狩猟をしたことが判明しました。鉄砲で狩猟をした後は、鹿は当分来なくなってしまいます。

増えすぎたエゾシカが農林業などへ与える被害にだけ注目すれば、ハンターによる狩猟と、囲いワナどちらでも良いことになります。しかし、野外での射殺・解体を行う肉と、生体捕獲・養鹿・管理された加工の肉では、安全・品質・味・安定供給などで大きく異なります。

個体数調整だけではなく、北海道固有のエゾシカを産業として育成する視点の重要性を訴えていきたいと思います。